

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 勝山市立村岡小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒911-0035
福井県勝山市郡町2丁目9-1

E-mail murokosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website <http://www.city.katsuyama.fukui.jp/school/e-muroko/murokohp/H27muroko/indexH27.html>

児童生徒数 男子 104名 女子 111名 合計 215名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

3. 活動内容

(1) 1学年の実践「たのしもう むろこのはる・たのしい」
学校の周りに出かけ、様々な動植物と触れ合い、野菜や果物、動物を育て、生き物との関わりを大切にしてきた。また地域の一人として、幼稚園の子やお年寄りの方とのふれあい交流も行った。

①学校の周りで、生き物と触れ合う。

豊かな自然に囲まれている学校という特色を生かし、外へ出かけ、様々な生き物と触れ合った。生き物との触れ合いを通じ、それぞれの季節を感じることができた。文化祭には、秋の植物を使ったお店屋さんごっこを行い、地域の人たちに楽しんでもらった。



②自分たちで命を育てる。

植物を育てたり、クラスでモルモットを飼育したりした。育てるという体験を通じて、命の大切さやお世話の仕方について学んだ。

③地域の方と交流する。

地域のお年寄りの方から、昔から伝わる日本の遊びを教えてもらったり、幼稚園児と一緒に遊んだりして、地域の方との交流を深めた。



(2) 2学年の実践「知ろう つたえよう！ むろこのいいところ」

自分たちの住む町、村岡町のよさを知るために、自分たちで調べたい場所の計画を立て、出かけた。そこで学んだことを、町の文化祭で、地域の方に伝えた。

①探検の計画を立てる

1学期は、自分たちの住む地区を中心に知っているところ、さらに知りたいたいところを話し合い、行き先を決め、公共施設や公園、店などに出かけた。



②探検に出かけて調べる

学校ボランティアの方の協力を得て、各地区のグループに分かれて町探検に出かけた。インタビューを行ったり、仕事内容を体験させてもらったりした。

③発信方法を考え、準備する。

各自で、パンフレット・巻物・壁新聞など、まとめ方を選択し、活動のまとめを行った。また、まとめた物を使い、グループごとに、ポスターセッション発表を行った。

④地域の方に発信する。

町の文化祭では、探検して見つけた村岡のよいところを、ステージで発表し伝えた。

(3) 3学年の実践「村岡たんけん隊」

昨年に引き続き、本校裏手にある村岡山の歴史やそこに生きる生き物を調べた。町の文化祭や勝山市の環境フォーラムにおいて、村岡山で発見したことを伝えた。

①村岡山に登り、学習課題を見つける。

村岡山で見つけてきたものから、植物・動物・歴史の3つのグループにわかれて調べた。

②課題について調べる。

市内の歴史探遊館「まほろば」へ出かけ、学芸員の方から村岡山の歴史について学んだ。

③地域に発信する。

村岡町の文化祭や、勝山市の環境フォーラムで、発見したものを地図にまとめたり、ステージ発表を行ったりして、村岡山での発見を伝えた。



④地域の方たちと活動する。

学校付近でアカトンボがよく見られる場所を「アカトンボロード」と名付け、地域の方々とは看板を設置した。



(4) 4学年の実践「作ろう！笑顔いっぱい村岡町」

自分たちの村岡町に様々な人々が住んでいることを知り、町にはどんな工夫がなされているか、また、みんなが住みよい村岡町にするためには、どうしたらよいかを調査し、その結果から、自分たちができることを考え、地域の人たちに提案した。

①福祉体験や話を聞き、学習課題を見つける。

社会福祉協議会の方から、福祉についてお話を聞き、アイマスクや点字体験を行った。さらに、知りたいことについて、地域に住んでいらっしゃる視覚・聴覚不自由者の方をお招きし、生活のお話を聞いたり、手話やニュースポーツを体験したりして、支援の仕方について考えた。



②課題別グループに分かれ、調査する。

体験したり、お話を聞いたりしたことから、学習課題を見つけ、目・耳・点字ブロック・公共施設の工夫・アンケート・高齢者・道具・ニュースポーツの7つのグループに分かれ、調査をした。



③発信方法、発信内容や提案を決める。

アンケート結果をデータにまとめて紹介したり、自分たちでみんなが楽しめるニュースポーツを考えたりした。公共施設の工夫や町にある点字ブロックについて、改善点を考えた。



④地域の人たちに伝える。

各グループで調査した結果から、提案したいことをまとめ、発信した。またワークショップを行い、実際に点字や高齢者疑似体験を行った。



(5) 5・6年生の実践「ミチノクフクジュソウを守ろう」(平成20年度から)

NPO 団体、「小原エコプロジェクト」の皆さんのご指導の下、自分たちの校区にある希少植物ミチノクフクジュソウについて知り、保全活動を行った。活動を次の学年へ継続し、また地域の方に発信して、啓発活動も続けている。

①ミチノクフクジュソウのことを知る。

北谷町小原地区に出かけ、ミチノクフクジュソウの開花状況を知る。また、花の観察を行い、受粉のために、花卉で花の中心温度を上げるなどの特性を知る。さらに、昨年度の6年生が描いた、保全活動を啓蒙する看板を設置した。



②下草刈りとミチノクフクジュソウの種まき

山の斜面に生えるミチノクフクジュソウが、日光に当たりやすくするために下草を刈ったり、プランターに種をまいたりした。小原地区付近に出かけ、ジオパークについて学習した。(伐採体験は天候不良で中止。)



③看板作り

保全活動を啓蒙する看板を作った。

④下草刈り

5年生が小原地区へ出かけ、ミチノクフクジュソウについてお話を聞いた。ミチノクフクジュソウは、自生しているものが少ないということを学んだ。また、ミチノクフクジュソウが育ちやすいように、下草刈りを行った。



⑤地域の方へ発信する。

町の文化祭にて、ミチノクフクジュソウは村岡町のみんなで守っていくべき大切な宝であることを劇にして伝えた。

(6) 特別支援学級の実践「やりたい、できた、みんなでいっしょに」

学級のみんなでやりたいことを計画し、取り組んだ。村岡山登山や、学級園での作物作り、その作物を使っての調理活動などを行った。

①村岡山登山。

みんなで一つの活動に取り組むことをめあてに行った。登った様子については、パワーポイントにまとめ、勝山市の特別支援学校合同発表会にて、発表した。



②作物を育て、調理する。

どの作物を育てるか話し合い、作物を協力して育てた。その作物を収穫し、調理活動を行って、交流学級や学校の先生方に食べてもらった。

(7) 学校全体で取り組む ESD パスポートの推進

ボランティア精神を育てることをねらいとし、ESD パスポートを活用した。自主性を養うために、ユネスコスクールの認定内容をもとに、村岡小学校独自の ESD ボランを定め、パスポートへの記入を促した。(地域への奉仕活動や、勝山市の祭り囃子保存会参加など)

活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()